

## 平成22年8月度 定例観察会 実施報告

実施年月日	平成22年8月7日(土) 10時30分から16時 天候 晴れ
スケジュール	<p>10:30 摩耶山 掬星台</p> <p>10:45 コース 解散時刻予定 怪我に対して自己責任など説明の後出発</p> <p>12:25~55 穂高湖にて昼食</p> <p>14:20 マムシ谷分岐</p> <p>？ 炭ガ谷入り口</p> <p>16:10 炭ガ谷下山口にて解散</p>
参加	一般 19名 会員 20名 合計39名
観察のテーマ	夏の六甲山上の植生
配布資料	観察コース地図・摩耶山お散歩ガイド・摩耶山さんぽ手帳
観察したもの	<p>植物</p> <p>ヒヨドリバナ、アキノタムラソウ、マユミ、ハエドクソウ、マルバハギ、フサフジウツギ、アオツツラフジ、アカガシ、クマヤナギ、アカメガシワ、エゴノキ、ノコンギク、ウリハダカエデ、イヌザンショ、ニセアカシア、ウツギ、ボタンヅル、ツルウメモドキ、ツルニガクサ、キブシ、ノブドウ、イワガラミ、クズ、ムラサキシキブ、キカラスウリ、ヘラオモダカ、ノギラン、シシガシラ、キンミズヒキ、ミズヒキ、コアカソ、クサギ、クロモジ、ソヨゴ、スマレ、オオバコ、ヤマウルシ、ヘクソカズラ、シラキ、ミヤマガマズミ、ガマズミ、コバノガマズミ、コナラ、ウラジロノキ、クリ、リョウブ、オニドコロ、カタバミ、マンサク、ウツボグサ、ゲンノショウコ、ヒメヤブラン、イヌツゲ、ウリカエデ、コウヤボウキ、スノキ、アクシバ、タカノツメ、ミツバアケビ、ガクウツギ、ヤマモモ、ヒノキ、シロバナウンゼンツツジ、シキミ、イヌガヤ、アギスミレ、カマツカ、サンゴジュ、ヒメコウゾ、サルトリイバラ、ウバユリ、ツチアケビ、アレチノヌスビトハギ、チドリノキ、コバンノキ、フタリシズカ、アリマウマノスズクサ、ノササゲ、コクサギ、ムラサキニガナ、キツタ、アオキ、ヤブソテツ、ミヤマウズラ</p> <p>鳥 鳴き声</p> <p>ホオジロ ホトトギス</p> <p>その他 お菊虫 アオダイショウ</p>
備考 気づいたこと・よかった点・悪かった点・課題等	<p>1・7月中は酷暑の日が続きこの日も心配したが、幸い薄曇で少しは暑さがしのげた。しかし風がなく蒸し暑かった。</p> <p>この時期はもう少し短い行程がいいのだろうか。</p> <p>2・一般参加者数が19名と手ごろな数になり、しかもベテラン会員に解説をお願いして、適切に対処いただいたためそれぞれの場所で十分に観察・説明ができたのではないだろうか。</p> <p>3・花が少なく主として植生の観察になったがこの時期としては仕様のないことだ。</p> <p>4・ツチアケビの実が観察できた。あまりない植物であり時期が合って良かった。</p>

## 掬星台～穂高湖

### 観察風景



掬星台から穂高湖に至るコースは車に注意しながらドライブウェイを利用しました  
ここは高木の花や実が目線の位置で手にとって観察できました。

### アカメガシワの花 トウダイグサ科

カシワと同じようにこの木の葉に食べ物を載せた。  
新芽は赤い。落葉高木。雌雄異株。  
荒地に最初に生えてくるパイオニア植物。



### イヌザンショウの花 ミカン科

サンショウに似ているが香が悪く食用にならない。  
落葉低木。雌雄異株。トゲ、葉は互生だがサンショウは  
対生。葉は奇数羽状複葉。日当たりの良い林縁などで  
いたるところで見られる。



### イワガラミ ユキノシタ科

落葉、つる性。幹や枝から気根を出し 他物に  
絡みつく。似たものにツルアジサイがあるが  
装飾花はガク片1枚がイワガラミ。4枚がツルアジサイ。



### 穂高湖で昼食



穂高湖～シェール道～マムシ谷～炭ガ谷

ヘラオモダカ トリガカ科

葉がへらの形に似るため。多年草。水田や浅い池に生える。水田では雑草として駆除される。

オモダカの花



オモダカの葉



ウツボグサ シソ科

太い花穂が矢を入れるうつぼに似るため。多年草。山野の日当たりの良い場所に生える。六甲山には山麓から中腹にかけて見られる。



アオダイショウ

日本本土では最大の大きさのヘビである。毒は無い。成体の体色は褐色がかかったオリーブ色で、不明瞭な縦縞がある。幼体は成体より色が薄く、縦縞の代わりにはしご状の斑紋がある。山地から平地まで様々な環境に棲み、時に人家の納屋などにも棲む、成体は主に鳥類や哺乳類を食べ幼体はカエルやトカゲもよく食べる。地上でも樹上でも行動する。農作物を食い荒らすネズミを捕るために、古来農家では大切にされた。



ジャコウアゲハの幼虫

オスの成虫から麝香のような匂いを出すことからきている。食草はウマノスズクサ類。体内に毒を蓄えて身を守る。蛹はお菊虫と呼ばれる。姿が番町皿屋敷の縛られたお菊さんを連想させるからと言われている。



ツチアケビ ラン科

光合成を行う葉を持たず、養分の全てを共生菌に依存している。ナラタケやラン菌根を形成し、栄養的には寄生している。地下には太い地下茎があつて、長く横に這う。地下茎には鱗片の形で葉が付いている。この実を干したものは漢方として使われ精力増強などに効果があると言われる。花はランの花をしており肉厚ある。

